

日本史B

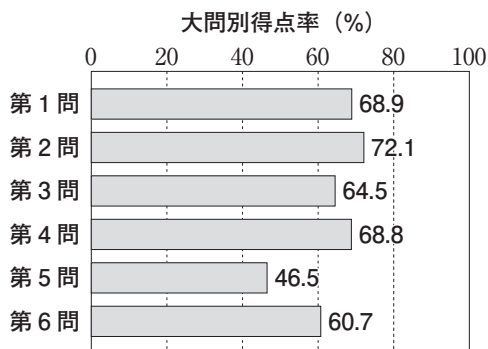
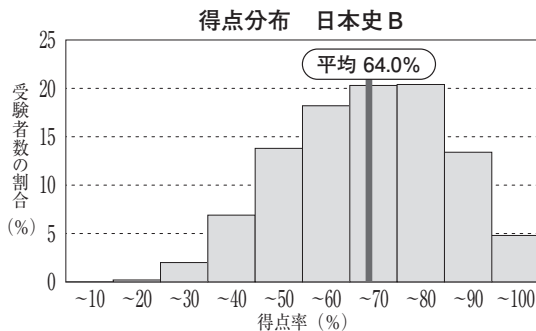
初志貫徹。やり抜いた「自信」を胸に乗り越えろ！

I. 全体講評

早いもので東進のセンター試験本番レベル模試も最終回を迎えた。やり抜いた自信を胸に「夢」のゴールにむかって壁を乗り越えてほしい。

最終12月センター試験本番レベル模試の平均点は64.0点と見事に本番の水準にもってきた。第2問の72.1%を筆頭に、第1問・第3問・第4問・第6問で6割の得点率を確保できたことは評価したい。その一方で、明治時代の産業・社会経済史を主題とした第5問は46.5%と苦しんだ。繰り返しの学習で苦手意識を払拭することが非常に大切だ。

本番まで残りわずかとなったが、この1年間であたった全ての回のセンター試験本番レベル模試を再度見直してみよう。類似した問題は本番に必ず出題される。すぐに実行しよう！



II. 大問別分析

第1問 衣服の歴史に関する会話

日常生活に関連する身近な話題から歴史に興味をもつ習慣をもとう！

近年のセンター本試・日本史B第1問では、身近な話題にスポットをあてながら広範囲にわたった歴史を概観させる傾向がみられる。歴史をまたがる視野をもち、変化の過程に留意しながら学習をすすめていこう。

第1問の得点率は68.9%と7割をうかがう勢いであった。問1～問5までは6割後半から9割の正答率を確保し非常に安定していた。その一方、戦後占領期に関して問うた問6は26.2%と大きく崩れた。占領政策や労働運動史は受験生が苦手とするテーマである。最後まで向上心をもち苦手範囲を克服することを課題として欲しい。

第2問 古代の政治・経済

「獲れる」問題は確実性を重視！ ケアレスミスには細心の注意を払おう！

奈良時代から平安時代中期に至る政治と経済を中心に出题した。律令体制が変質していく過程をさまざまな視野から分析してみよう。

第2問の得点率は72.1%と大問6題の中で最高の数字であった。問5の正答率は41.8%と不調であったが、その他の設問で十分カバーできていた。問6の史料を読解する問題は81.4%と冷静沈着な態度でしっかり対応できていたようだ。基礎的な問題で「こわい」のは設問内容に関する「勘違い」からくるケアレスミスだ。時間的余裕が生じた場合は点検作業を繰り返すなど細心の注意を払って問題にあたること。

第3問 中世の旅と隠者

得点差が生じやすい文化史を「お得意様」とすることで高得点を確保しよう！

中世の旅と隠者を取り上げながら文化史を中心に出题した。文化史の比重が高かった年の平均点は前

年比で下がる傾向がある。得点差が生じやすいテーマなだけに最終段階の今、復習を繰り返すことが大切だ。

第3問の得点率は64.5%と6割ラインは確保できた。5割を下回る設問はなかったが、問1(56.2%)や問3(56.3%)のように解答が分散する傾向もみられた。問1は誤答③を選択した受験者が34.0%にもなった。文化史の場合はまずその文化的史実の「時期」を把握した上で、通史と関連づけて理解を深めていくことが大切だ。

第4問 近世の社会・政治

視覚教材を使った学習も含め、社会経済史を克服しよう！

製鉄技術や地方の藩政といった特殊テーマを題材に、近世の社会・政治を中心に出题した。特殊テーマとはいえ、問われる内容は基礎・標準である。腰をどっしり据えて問題にあたることで正答を導きだそう。

第4問の得点率は68.8%と第1問と同水準であった。問6(50.2%)以外の設問では6割～8割の正答率を確保しており、自信をもって問題にあたっていた様子をうかがうことができる。問2・問3の社会経済史もそれぞれ79.1%、80.6%と好調であった。なお、社会経済史に関しては視覚資料をともなって出題されるケースが目立つので農具などは図版集で必ず確認しておこう。

第5問 明治期の政商

まだ時間はある！ 近現代の産業・経済史は早急に点検作業を遂行しよう！

政商を取り上げ、明治期の産業・経済を中心に出题した。近現代における経済状況の浮沈は社会全体に大きな影響を与えただけに総合的に理解を深めていこう。

第5問の得点率は46.5%と大問6題中、最下位に沈んだ。この数字からも徹底した点検作業が必要であることは明白だ。問2(33.1%)・問4(26.1%)の正答率から選択肢に惑わされた受験者の姿を容易に想像できる。問4の場合、誤答③を選択した受験者が40.9%にも及んだ。解答解説を熟読することで知識が不足している箇所を自覚し早急に点検作業を遂行しよう。

第6問 近現代の地震災害

戦後史は網羅性を重視し、1990年代まで視野に入れて学習しよう！

大正・昭和時代における地震災害の歴史をテーマとして取り上げた。2016年も熊本地震や鳥取地震など大きな地震災害が発生した。センター本試・日本史Bは時事的な話題に敏感なだけに問題文を再度精読してみよう。

第6問の得点率は60.7%と辛うじて6割台を確保した。問2の正答率は41.2%と5割を切り、誤答①(41.9%)の選択率を下回った。さらに問7では1990年代の首相を問う単純な問題に苦戦したようだ。戦後史については高度経済成長期に関してはもちろんのこと、1980年代から1990年代をも対象とされる。最後の最後まで網羅性にこだわった学習を遂行しよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆正誤問題・時代整序問題の攻略法

直前期にある今、再度、正誤問題と時代整序問題の攻略法についてアドバイスしたい。

(1) 正誤問題

史実はそのおこった「時期」、関わった「人物」やおこった「場所」、そして「結果・意義」の4点によって構成されているとあってよい。様々なパターンが考えられるが、誤文はこのいずれか「1カ所」を変更する場合は圧倒的に多い。正しい事実を把握した上でこの4点を同時・多面的に考察することで正答を導きだそう。

(2) 時代整序問題

年代が離れているケースが多いだけに「時代をまたがる視野」から分析していこう。西暦年にあてはめてもよいが、「流れ」を重視してあたることで確実に正答にたどり着けることができるはずだ。

◆「幸せ」になろう

幸せな人生とは、直接的のみならず間接的にも「誰か」の役に立っていることを感じる環境のなかで「生き続ける」ことにあるのではないだろうか。そのためには「勉強」が必要だ。君たちの人生に期待してやまない。

— 大丈夫だ、心配するな、なんとかなる —

— 休宗純